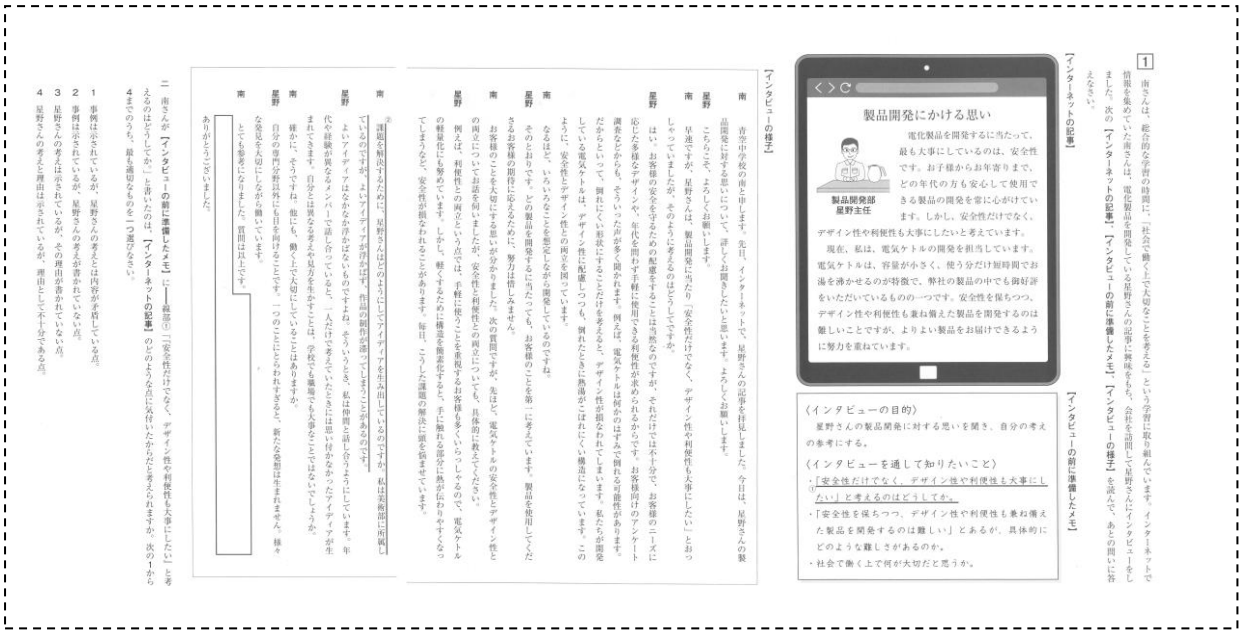
令和 5 年 4 月 18 日実施　全国学力・学習状況調査 【中学校　国語】 松山市の調査結果の概要

1 国語について

全国と松山市の調査結果を比較すると、平均正答率はほぼ同じ状況でした。

学習指導要領に示されている「知識及び理解」の領域は全国平均とほぼ同じ状況であり、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域もほぼ同じ状況でした。



2 分析結果から特徴が見られた問題

1－二

正答　3

全国の正答率　　65.1%

松山市の正答率「全国の正答率をやや下回る」

4－三

正答例

「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。

全国の正答率　50.0%

松山市の正答率「全国の正答率を大きく下回る」

3 考察

1－二は、意見と根拠などと情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題です。2と解答した割合が全国平均よりもやや高く、「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」という星野さんの考えが示されていることを捉えることができなかったことが考えられます。4－三は、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題です。無解答率や条件を満たさない解答の割合が全国平均よりやや高く、現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかを【授業で読んだ「竹取物語」】と比較して書くことができなかった生徒が多いと考えられます。

4 これからの学習にあたって

情報を集めるためにインタビューをするときは、聞きたいことを事前に整理するなどして、知りたいことを明確にして臨むことが重要です。また、実際にインタビューする場面では、話し手の意図を考えながら聞き、必要に応じて相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞いたりすることが大切です。

古典の原文を学習することは、古文や漢文特有のリズムを味わったり、文語のきまりを知ったりする上で、重要なことですが、分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などから、古典に関する様々な事柄に触れ、表現の良さに気付くことで、さらに古典への親しみをもつことができます。